

交流会3 「実習現場の環境整備 - 他施設から学ぶ人材・設備・時間・情報確保のあれこれ -」

神戸市立医療センター西市民病院における実習現場での受け入れ時の工夫

Considerations for Accepting the Practical Education of  
Nursing Students in Our Facility.

川島 佳奈

Kana Kawashima

神戸市立医療センター西市民病院は、神戸市市街地西部の中核病院として、24時間365日救急医療を提供しています。救急・ICUを合わせ9病棟・358床で、急性期病床と今年度から開設された地域包括ケア病床を併せ持ち、医療と介護の架け橋を担う病院です。病院のある周辺地域は高齢化率が神戸市の中でも突出して高く、高齢者が多い地域です。また、平成7年に起きた阪神淡路大震災では病院自体が大きな被害を受け、そこから復興した病院でもあります。

「地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために安全で質の高い心のこもった医療を提供する」という病院の基本理念を基に、「患者さん中心の優しさと温もりのある質の高い看護を提供する」を看護部理念とし、日々の看護にあたっています。

入職後の教育支援体制についても簡単に触れさせていただきます。1999年からプリセプターシップ制度をとり、看護職員全員で新人をサポートする屋根瓦方式で新人教育を行っています。一人の新人看護師に、3～4年目の先輩看護師がプリセプターとして「良きお姉さん・お兄さん」のようなポジションで、1年間支援・指導にあたります。基本的知識・技術や日常業務の習得支援を行い、時期にあった目標を設定し、その目標を達成できるよう支援しています。プリセプターだけでなく、同じ部署のスタッフ・主任・看護師長、看護部管理室、リエゾン看護師もサポートし、委員会が主催する新人研修なども行いながら、病院全体で喜び・苦しみを分かち合い新人が成長できるように支援しています。

看護学実習の受け入れについて述べますと、平成28年度は、周辺地域にある看護大学や専門学校などから合計213人を受け入れています。実習が全く初めての学生から最終の総合実習まで、さまざまな学年の実習をほぼ一年中受け入れ、全ての病棟で実習指導を行っています。

では、実習受け入れ時の工夫について具体的に述べていきます。

私が所属している病棟は呼吸器・循環器を主科とする病棟で、病床数は50床、看護師数は31人です。1年間に6回ほど、期間は2～3週間の実習を受け入れています。1回の学生の人数は4～6名です。病棟の体制としては、3人の学生実習担当者がおり、実習の準備や教員との調整の窓口、カンファレンスへの参加、学生への直接指導も行い、学生の特性や実習の進捗状況を出来るだけ把握するようにしています。また患者選定では実習の目的にあった疾患や病状、患者の個性を考慮し選んでいます。実習期間を通して実習担当者がすべての学生指導を行えば良いのですが、勤務の都合や実習人数などで困難なため、日々の実際の学生指導は、学生が受け持つ患者の部屋を担当している部屋もち看護師が行っています。そのため、できるだけ2年目以上の看護師が部屋を担当できるように、部屋振りを考慮しています。

次に実習時の工夫点について、4つに分けて具体的に述べていきます。1つめは「情報の共有」をすることです。

まず、実習開始前の実習担当教員との打ち合わせ時に、実習に来る学生の特性やグループの雰囲気を知ることができるようになっています。学生の準備状況や配慮が必要な学生をあらかじめ聞いておき、病棟と教員間での情報を共有することで指導にあたるスタッフも心構えや準備ができます。実習中は先に述べたように日々の受け持ち看護師が指導に当たるため、一貫した実習指導が行えるように学生ごとに「引き継ぎ表」を作り、「行ったケア」「指導した内容」「次に引き継いで欲しい事柄」を看護師間で共有できるようにしています。

実際に実習指導にあたる受け持ち看護師は勤務始めにこの表を見て、学生の進行度や課題などを知ることによって実習指導に生かしてもらい、その日の最後に次への課題や引き継ぎ事項を簡単に記入してもらっています。

ここにその一例を示します。

表1 学生指導引き継ぎ表

日付	●/△	●/□
今日の目標	誤嚥しない食事方法を取る 痛みの苦痛緩和	誤嚥しない 疼痛緩和
行ったケア	バイタルサイン測定 コミュニケーション ポータブルトイレでの 陰洗 車椅子移乗	バイタルサイン測定 環境整備 車椅子移乗での食事 トイレ介助
指導した内容	*引き続き患者さんの 疾患や検査データを見て、 観察に活かすように *日中うとうとしている ことが多いので、 昼夜リズムをつける ためのケアについて 考えてもらうように	*車椅子に移乗したり、 日中も覚醒を促すよう 計画を立て、実行が 出来ていました *動作や手の向きで 点滴の速度も変わる 為、そこも観察する 事 *車椅子移乗から ベッドに戻るまでの 援助について助言 しました
翌日への引き継ぎ	*覚醒を促すケアが 挙がっているか確認 してください *誤嚥しない&安楽な 体勢について、十分 に聞けなかったので 聞いてあげてください  ○○	*陰洗は学校の先生と 実施できたので、 明日はシャワーか 陰洗を経験できた らと思うので行動 調整をお願いします *点滴の速度計算は 出来ていたため 明日観察できている か見てあげて下さい  △△

2つめは「学生へ柔軟な対応をする」ことです。私自身が学生だった時のことを思い出すと、実習担当の看護師に声をかける時にはとても緊張していました。今も学生は同じ気持ちだと思います。どうしても日々の忙しさの中で指導にゆっくりと時間をかけられなかったり、スタッフに余裕がなく厳しく接してしまう時もあるのですが、出来るだけ病棟全体で実習を受け入れているという雰囲気が作れるように努めています。

具体的には

- ・ベッドサイドでは、学生が患者へ話しかけるきっかけを作る。
- ・学生が自分の意見を指導者に伝えやすいように、行動調整時・報告待ちの時など指導者側から積極的に声をかけるようにする。
- ・看護師が他の処置や休憩に行く時間がわかれば伝えるようにする。
- ・指導を行う時には患者の病態がイメージしやすいように、抽象的な表現は避け、具体的に伝えるようにする。

などを工夫しています。

3つめは「前向きな評価」をすることです。

どうしても指導の際には改善点を指摘しがちなのですが、学生カンファレンスやレポートの評価の際は、ネガティブなことだけではなくポジティブなことを返すように心がけています。実際に指導にあたった看護師に学生が頑張っていたことや患者の反応などを聞き、学生にフィードバックするようにしています。

4つめは「指導にあたっている看護師への配慮」です。

学生実習指導中は他の部屋持ちの患者の看護に加え、実習指導にもかなりの時間を割いてもらっています。連日実習指導に当たることもあり、大きな負担をかけていることもあります。

そのため、学生指導担当者がそれぞれの部屋持ち看護師にも直接声をかけ、頑張っていることや困っていることなど学生の情報を聞くようにしています。

また、2～3年目の看護師や異動してきて病棟自体の経験が少ない看護師に指導してもらう場合には、あらかじめ指導して欲しいポイントを伝えたり、指導をして困っていることはないか尋ね、アドバイスをするようにしています。

そこでこれらの指導の工夫を行った結果、学生からは以下の通りの評価を得ています。

表2 神戸市看護大学 実習アンケートより

設問文 (各5点)	H27 n=43	H28 n=31
指導者は学生の判断や記録、行動に対して適切な助言・援助をしていた	4.35	4.72
指導者は学生の主体性を尊重し、考えや意見を十分に聞いていた	4.40	4.72
指導者が学生と対象者との関係を良好にするための配慮をしていた	4.40	4.58
指導者から目指す看護に対しての具体的な支援が得られた	4.29	4.65
指導者から実習中の気づき・体験を意味付けるための支援が得られた	4.39	4.57

自由記載でも「指導はわかりやすく、話しかけやすく、とてもいい雰囲気です実習ができました」「多忙の中、学生のために時間を割いてくれて、とても手厚い指導を行ってくれ、学生の学びは非常にたくさんあった」などと、指導者の評価において、ありがたいことに全ての項目で高い評価をいただいています。

以上が当病棟で行なっている、実習指導時の工夫点になります。近年、学生の特性が多様化し、指導の方法に工夫が必要な学生が増えているように感じています。変化していく学生の特性についても対応し、今後も学生が成長していくための実習環境を整えられるように病院全体で取り組んでいきたいと思っています。